

平成 29 年度 第一回逗子市文化振興基本計画策定・推進会議 議事録

- 日時 平成 29 年 6 月 29 日（木）午後 3 時～午後 5 時 30 分
- 場所 市役所第 2 会議室
- 出席者 （敬称略、順不同）
（会長）渡邊忠貴、（副会長）森谷紀子、山口歆三、磯野昌子、若狭秀巳、
七海耕一、河路容子、黒川恭祐
- 欠席者 森川いつみ、石井昭子、利根川博
- 事務局 文化スポーツ課：阿万野課長、黒羽係長、鬼原主事、森主事補
- 会議の公開・非公開 公開
- 傍聴人の有無 0 人
- 記録 森主事補 平成 29 年 7 月 6 日作成

■議題

- (1) 平成 28 年度逗子市文化振興基本計画進捗管理（自己評価）に関する意見聴取
- (2) 「(仮称) 逗子アーカイブス」の推進について
- (3) その他

■事前配付資料

- ・資料 1 平成 28 年度逗子市文化振興基本計画進捗管理（自己評価）について
- ・資料 2 評価ランクの基準
- ・参考資料
平成 28 年度逗子市文化振興基本計画進捗管理（自己評価）に関する意見聴取について
逗子アートフェスティバル 2016 事業報告書

■当日配付資料

- ・会議次第
- ・名簿
- ・参考資料
「(仮称) 逗子アーカイブス」の方向性についての意見（報告）
逗子アートフェスティバル 2016 ガイドブック

■議事

1 開 会

【配付資料の確認】

【出欠の確認】

【新メンバー紹介】

<事務局>

市民委員の秋山メンバーが辞められたので、4月に市民委員を公募したが応募はなかった。再度公募を続ける。

- ・社会教育課 黒川係長。
- ・図書館 利根川専任主査。

<事務局>

本日の議題について、1点目は「平成28年度逗子市文化振興基本計画進捗管理（自己評価）」について皆さまの意見をいただく。2点目は「(仮称)逗子アーカイブス」の進捗について報告する。

ここからの進行は会長にお願いします。

2 議 題

(1) 平成28年度逗子市文化振興基本計画進捗管理（自己評価）に関する意見聴取

<会長>

資料2「評価ランクの基準」と参考資料「平成28年度逗子市文化振興基本計画進捗管理（自己評価）に関する意見聴取について」が評価の基準であり、事務局の評価が妥当かどうかを評価していただきたい。

逗子市文化振興基本計画進捗管理（自己評価）について事務局から説明をお願いします。

<事務局>

資料1、資料2をご覧ください。

進捗管理の対象は、個別計画の上位計画である総合計画と基幹計画に記載されている事業である。それぞれ所管課の自己評価について、意見をいただきたい。文化振興基本計画の場合はリーディング事業が1つ、基幹計画が事業2つである。さらに、文化振興基本計画全般（施策体系ごと、理念）に対する所管課の自己評価についても意見をいただきたい。

<事務局>

資料1 事業進行管理表（文化振興推進事業（逗子アートフェスティバルの充実））について説明。

<会長>

「(a) 順調である」という評価であるが、質問・意見等はあるか。

<山口メンバー>

参加企画数が目標であるが、数値以外の幅広い目標はあるのか。

<事務局>

文化振興基本計画作成時の目標値が 28 企画である。

質の向上は図られていることもあるが、本懇話会ではあくまで目標値に対する評価をいただきたい。

<会長>

目標それ自身の妥当性について検証すべき。

<若狭メンバー>

企画数よりは参加者数のほうが目標としては大きなポイントである。

数の論理だけでなく内容の充実も必要である。例えば、各イベントの参加者の感想・意見等を吸い上げる仕組みはあるのか。

<会長>

それはある。

参加企画数だけでなく内容も重要であるが、内容の評価は難しい。企画者や来場者を対象としたアンケートや、関東学院大学の先生に依頼し調査を行っている。内容の充実につながるか疑問もあるが、まずは積み重ねが必要である。内容の評価については来年のプランに反映させたい。

<若狭メンバー>

数値目標は大事。アートフェスティバルの数値目標は分かりやすい。

<山口メンバー>

事業の反省点に「昨年度に引き続いての参加が多く」とあるが、各企画の参加年数等、企画の推移が分かれば、目標達成状況のインセンティブにつながる。

<事務局>

市民企画は各企画において質の向上が図られている。来場者が市民企画として参加することもある。最初から参加している方も向上意識を持って企画を運営している。

また、逗子には多くのギャラリーがあり、アートフェスティバルに参加してきている。

<会長>

ユニークで深みのある企画が増えてきた。

<河路メンバー>

ガイドブックだけだとアートフェスティバルの内容が分かりづらい。若者は SNS で情報を収集している。市外への周知には SNS の活用も考えたほうが良い。

<会長>

ガイドブックについて、逗子は高齢者が多いので紙媒体が絶対に必要であるが、新規の来場者の拡大のためには新しい発信方法を考える必要がある。

<事務局>

今年はInstagramとツイッターとを連動して、最新情報を提供する予定である。

<七海メンバー>

来場者の満足度を図るのは数量的に難しいと思うが、企画者の満足度は図っているのか。

<会長>

企画者へのアンケートは実施したが、アンケートに答える人と答えない人がいるため正確な集計は難しい。

<磯野メンバー>

アートフェスティバルの期間を前・後期の2期に分けた理由と効果を教えてほしい。

集客力の高い逗子海岸映画祭が、アートフェスティバルの一つの企画である認知度は低い。アートフェスティバルの宣伝等、さらなる連携を取れないか。

また、アートフェスティバルの上手くいかなかった点があれば教えてほしい。

<事務局>

アートフェスティバルを2期に分けたのは、開催期間を短くするためである。特に後期は音に関する企画を中心とし、特色ある企画を集めた。

逗子海岸映画祭と積極的な関わりはなかったが、今年はずしコンシェルジュ募集のチラシを逗子海岸映画祭の入口で配布した。

上手くいかなかった点として、市外に向けての周知・情報発信が難しい。今年はプロデューサーを依頼して、様々なPR方法を教えていただいている。

<会長>

今年はトリエンナーレであるためプロデューサーを依頼している。缶バッジの新しいデザインを提案される等、様々な形の情報発信を期待している。

<副会長>

更なる市民主体の実施をお願いしたい。軒先アートの意味合いを含めて、軒先にアートを飾る家や古民家も引き込めば、アートフェスティバルは拡大していく。

<若狭メンバー>

葉山芸術祭やふじさわアートフェスティバルでは、それぞれの個性が見られるが、逗子のアートフェスティバルが持つ他地域と異なる特色が見えてこない。

<会長>

アートフェスティバルはまだ試行錯誤の期間である。

市民企画も実行委員会も事業を行うことには慣れてきた一方で、緊張感が欠けている印象もあったが、今年はプロデューサーがいるので、緊張感を維持せざるを得ない。認知度は高まってきていると自負しているが、自己満足であるという声もある。スタッフが絶対的に不足しており、自分で引っ張っていくような人が実行委員会に入ってほしい。

工夫している点として、ずしコンシェルジュ（ボランティア）がある。継続して参加していただいている方もいる。初めはガイドブックの配布のみであったが、今では企画内容

の紹介や企画の開催場所までの案内、飲食店の紹介等、活動が多岐にわたり良い感じとなっている。

<会長>

委員の評価について、事務局の提案どおり「(a) 順調である」でよろしいか。

【異議なし】

<事務局>

資料1 事業進行管理表（アウトリーチ活動推進事業）について説明。

<会長>

質問・意見等はあるか。

<若狭メンバー>

アウトリーチ事業の時間や実施方法等、具体的な内容を教えてほしい。

<事務局>

能は、衣装を着て仕舞の初歩的な部分を教える等、子どもたちに体験してもらうもの。

太神楽は、体育館に学年ごとに集まり鑑賞した後に、太神楽で使用される楽器の紹介を行うもの。

<七海メンバー>

音楽について、どのジャンルの音楽を実施したのか。

<事務局>

ブリッツフィルハーモニックウインズというオーケストラの小ユニットを実施した。

<若狭メンバー>

文化プラザホールに子どもたちを招待する活動はアウトリーチ事業ではないのか。

<事務局>

外部に出張して実施することがアウトリーチ事業になる。

<磯野メンバー>

事業費が106万円程度であるが、すべて市の予算なのか。学校の負担はないのか。

<事務局>

市の指定管理料の自主文化事業費から支出しているため、学校の負担はない。

<磯野メンバー>

アウトリーチ事業を請け負う団体には、割安な価格で実施してもらっているのか。

<事務局>

アウトリーチ事業を請け負うのは、ホールで本公演をする団体が主であり、団体や本公演のPRの意味も含めて割安な価格で実施してもらっている。

<河路メンバー>

対象が子どもと高齢者だけであるので、その中間層も対象にしてほしい。学校であれば、

保護者にも参加してもらえば良い。

<事務局>

指定管理者も検討しているが、学校との調整が難しいと聞いている。

<会長>

年度ごとに、対象に優先度をつけて区分するのはいかがか。

<事務局>

小中学校はアウトリーチ事業への期待が高いため、外すことは難しい。

特別養護老人ホームや高齢者センター等の施設にも拡大していく。

<会長>

福祉施設では笑いをもたらすことが重要であり、大変喜ばれる。

また、ホールの指定管理者だけでなくボランティアも動員して事業を実施すれば更なる拡大につながるだろう。

若手演者がアウトリーチ事業から発展しホールで開催するようになったり、またその弟子がアウトリーチ事業で講演したりと良い循環が生まれ、息の長い事業となる。

<磯野メンバー>

目標の基準が参加者数や企画数ではなく、メニュー数であることが重要であるのか。むしろ実施場所の拡大や参加者を増やすことが重要ではないか。

<事務局>

以前のアウトリーチ事業はメニューが固定していたので、総合計画策定の際には様々な芸術に触れてもらう目的でメニュー数を目標値の基準とした。

<会長>

アウトリーチ事業を請け負う人の自己満足では目的と違う。受け手の評価はあるのか。

<山口メンバー>

小中学校からは今年もやってほしいという声があることから、それは受け手の評価ではないか。

小中学校等で公演をしてもホールで公演をしなければ、アウトリーチ活動とは認められないのか。

<事務局>

小中学校等のみの公演でもアウトリーチ活動となる。

ホールで開催する質の高い文化・芸術を、アウトリーチ事業として普段文化・芸術に触れる機会のない方を対象に実施することに価値がある。

<山口メンバー>

目標を鑑みて、2018年度までに1メニュー増やさなければならないのであれば、ターゲットの絞り込みが必要である。

<事務局>

指定管理者には、目標を理解したうえで自主文化事業に取り組んでもらう。

<若狭メンバー>

小中学校全8校で16件の実施であれば、1校2件実施しているということか。

また、小中学校での参加者数が、1,200人というのは少ないのではないか。

<事務局>

学年ごとで実施することが多いので、1校2件とは限らない。平成28年度は久木小学校以外の学校はすべて実施している。また、学年ごとでの参加が主であるので妥当だと考えている。

<会長>

小中学校の児童・生徒の参加率等の数値目標は設けているのか。

<事務局>

数値目標の設定はしていない。

学校からの希望もあるので、実施する学校の都合に左右されることが多い。

<若狭メンバー>

参加者数の評価もあるのではないか。

<事務局>

小学校低学年の児童には難しい内容もあるので、小学校高学年の児童は必ず参加する形にすれば、全児童・生徒に必ず1回はアウトリーチ事業を受ける機会を提供できる。

<副会長>

支援学級やフリースクールに通う児童・生徒が増えてきているが、そのような場所には行っているか。

<事務局>

今後検討していきたい。

<会長>

委員の評価について、事務局の提案どおり「(a) 順調である」でよろしいか。

【異議なし】

<事務局>

資料1 事業進行管理表（文化プラザホールの維持管理事業）について説明。

<会長>

質問・意見等はあるか。

中長期的改修計画の中で、改修修繕が実施できたものと実施できなかったものを教えてほしい。

<事務局>

平成29年度の中長期的改修計画では、7件の改修・修繕を計画していたが、予算化したのは3件のみである。

<山口メンバー>

中長期的改修計画の一部が先送りになっていることが前提に今年度の予定が7件であり、実際はもっと多くの改修・修繕が予定されていたのではないかと。

<事務局>

その通りである。

<山口メンバー>

速やかに改修・修繕を行わないと文化プラザホールの維持管理もままならない状況であるが、事業進行管理表は昨年とほぼ同様な内容であり、危機感が読み取れない。

<会長>

2015年度から2022年度の計画事業費は534,388千円を計上しているもので、1年度で6,700万円弱の予算があるはず。しかし、昨年の事業費は1,200万円弱である。予算計画がおかしいのではないかと。

<事務局>

当初はホールを貸館で運営しており、質の高い公演を運営するため、施設として十分な状態で貸出できるように計画していた。そのため、メーカーが推奨している交換期間を基に中長期的改修計画を作成した。実際は、設備の使い方によって、長持ちする設備と長持ちしない設備があることも勘案している。

<会長>

コンサートの途中で警報機が誤作動するようなことはないかと。

<事務局>

公演に直接妨げになることが懸念されるものは、優先順位を高めて改修・修繕している。

予防修繕が本来必要であるが、中小規模の改修・修繕は予算化されないことが多い。

舞台設備の改修・修繕は、ホールの開館時から同じ専門業者なので、予算化されなかった場合は公演が中止にはならないよう、メンテナンスをしていただいている。

<若狭メンバー>

ホールの収入が増えることで改修・修繕の費用が賄えないのか。

<事務局>

指定管理料として、収入も含めて支払っているもので、収入が増えてもそれを費用に直接回すことは難しい。

<会長>

貸館の利用には影響があるのか。

<事務局>

貸館については、設備よりも収容人数の大きさが最も影響する。ホールの555人の収容では損益分岐点であると言われている。

<七海メンバー>

舞台設備について、予算化されないので最低限止まらない程度にメンテナンスを行うと

いうやり方であると、「(b) 概ね順調であるとみなせる」という評価ではない。

<山口メンバー>

反省点を具体的に書いた方が良い。先送りにしている改修・修繕について詳細に記載するだけでも緊急性が分かりやすい。

<会長>

曖昧な評価を付けると、緊急性が伝わらない。

懇話会からは「(c) 順調であるとみなせない」と評価せざるを得ないで、よろしいか。

【異議なし】

<副会長>

本当は c⁺ の評価をつけたいが、評価の基準が a~c しかないので仕方がない。

<若狭メンバー>

この評価の基準は市全体で同様か。評価の基準自体がふさわしくない。

<事務局>

資料 1 個別計画進行管理総括表について説明。

<副会長>

ホールに文化の発信拠点という意味合いを持たせるなら、ホールを益々魅力のあるものにしないとイケない。維持管理は当たり前である。10 年間運営してきた中で、キャパシティが 555 席という課題を考えつつ、そのキャパシティの中での利用方法を再度考える必要がある。メンテナンス不足で利便性が低下すれば負の遺産になりかねない。

<若狭メンバー>

ホールの稼働率を教えてほしい。

<事務局>

利用率は、なぎさホールが 69.9%、さざなみホールが 95.4% で、平成 27 年度より増加している。

<若狭メンバー>

収入の目標と実績はあるか。

<事務局>

お客様の利用の仕方によって収入が変化するので、利用日数から収入を予測できないこともあって、収入の目標は立てていない。

<副会長>

近年はどこのホールも回転数を増やすために、当日利用枠を設けている。

逗子はそういう取り組みを行っているか。

<事務局>

当日利用枠を設けているのは練習室だけである。

<会長>

緊張感を持った評価の仕方や、増えた収入の一部を市に返還したり維持費に回したりする仕組みが必要である。

<副会長>

開館から10年経過したホールは、様々なところに不具合が出る。今考えないといけない問題である。

<七海メンバー>

高齢者を対象としたアウトリーチ事業は今年が初めてか。

<事務局>

高齢者センターは過去にも実施しているが、介護老人保健施設での実施は初めてである。

<七海メンバー>

文化・芸術に触れる機会が持てない人に提供するという点であれば、高齢者を対象とすることは広がりを感じられ、事業の目的に沿っている。また、高齢者だけでなく介護者にも観てもらうことで癒しを提供できる。介護者へ優先販売することも一つの案である。

<事務局>

指定管理者もアウトリーチ事業の新たな実施場所を開拓している。

また、来年度からの次期指定管理者にも、皆さまのご意見をお伝えする。

<山口メンバー>

維持管理・整備だけでなく、効果的な活用についても一言入れてほしい。

<若狭メンバー>

文化スポーツ課が企画して収入が市に戻るような仕組みを作ったら良い。市民全体でホールを活用していく企画がいくつかあっても良い。

<会長>

担い手は誰になるのか。

<若狭メンバー>

すでにホールで企画している団体と共催できれば良い。

<事務局>

市民協働については、次期指定管理者公募の条件としている。

また、収益の一部はホールの改修・修繕に活かすよう指摘されている。

<会長>

事業進行管理表と個別計画進行管理総括表の案は、いつ頃確認できるのか。

<事務局>

7月上旬には記入したものを確認していただきたい。

(2) 「(仮称) 逗子アーカイブス」の推進について

<会長>

次に、議題2「(仮称) 逗子アーカイブス」の推進について。

2月7日(火)に平井市長に意見書を提出した。詳細は事務局から説明をお願いする。

<事務局>

今年度から、企画課で逗子フォト事業を実施する。逗子フォト事業の仕様の決定後、8月頃から協議を行い、アーカイブスにも拡張できる形で運用してもらう。

<会長>

アーカイブスについて、今年度に方針を決めていくのか。

<事務局>

今年度は構築に向けて検討し、実際に運用していくのは平成32年度以降の予定である。

<会長>

アーカイブスは逗子フォト事業に相乗りする形をとる。8月頃に企画課と協議するが、希望が通らない場合は、再度市長に相談することも考える。

推進の仕方について、まずは市で所有しているものから始める。その後市民が所有する対象物について情報を収集し、整理してデータ化する。

予算については、クラウドファンディングが検討の余地がある。

<副会長>

今年の鎌倉の花火大会は、「iikuni(いいくに)」というクラウドファンディングで復活した。「iikuni」は地方の活性化を目的としており、集めた資金の100%を自治体に還元する。

このような仕組みを取り入れれば、財政状況に関係なく様々な活動ができるはずである。

<会長>

ホールの維持管理費にも活用できるのではないか。

<副会長>

その通りである。予算をもらうのではなく、自分で引っ張ってくるという考え方である。

(3) その他

<会長>

続きまして、議題3「その他」について、事務局から説明をお願いしたい。

<事務局>

先に「まちづくりネットワーク」についての報告をお願いしたい。

<山口メンバー>

池子小学校区住民自治協議会に対し、私より、「(仮称) 逗子アーカイブス」に関連して、米軍家族住宅建設問題の資料が市においても欠落していることから、資料収集協力について池子小学校区に限らず住民自治協議会への要請は可能かどうか質問した。市長より「(仮称) 逗子アーカイブス」の必要性及び関係者も高齢化し資料の散逸、消滅が進行している

ので時間との戦いであることを説明いただいたが、住民自治協議会への協力要請については言及されなかった。その後の質疑で、別の住民自治協議会委員より、住民自治協議会は独自に活動するという認識はなく、市を窓口とし協議会として必要な活動を行っていく組織であるという趣旨の発言があった。

以上の経緯より、本推進会議より住民自治協議会への資料収集要請等を行う必要が生じた場合は、住民自治協議会を主管する企画部に要請することになるものと認識した。

<若狭メンバー>

私は「守る会」の主要メンバーの1人であったが、すでに手元に当時の資料は無く、資料はばらばらになっている。

<会長>

アーカイブスは時間との戦いである。できることはやっていかなければならない。

<会長>

最後に、「逗子アートフェスティバル 2017」について、スライドで概要を紹介する。

アートディレクターの柴田氏に依頼して、様々な企画を提案していただいている。

10月7日にオープニングの「超ボレロ」から、逗子アートフェスティバルの流れを創っていく。「リバーグラフィティ」という企画は、逗子マリーナの護岸に高圧洗浄機で長い絵を創る。ギネスに登録されるかもしれない。「日米親善音楽祭」は、10月21日（土）に池子の森自然公園の400mトラックで開催されるイベントで、地元ミュージシャンや逗子に縁のある人を呼んで音楽会を催す予定である。

<会長>

他に質問・意見等のある方はいるか。

3 閉 会

<事務局>

以上で「平成 29 年度逗子市文化振興基本計画策定・推進会議 第 1 回会議」を終了する。

◇◇◇終了◇◇◇